

資料

栃木県保健医療計画(6期計画)

■計画策定の経緯

年月日	内容
平成23年 6月30日	社会保障・税一体改革成案決定
平成24年 2月17日	社会保障・税一体改革大綱閣議決定
平成24年 3月22日	医療提供体制の確保に関する基本方針の一部を改正する告示 栃木県保健福祉協議会(平成23年度第1回)の開催
平成24年 6月28日	栃木県保健福祉協議会(平成24年度第1回)の開催
平成24年 9月13日	栃木県保健福祉協議会(平成24年度第2回)の開催
平成24年11月29日	栃木県保健福祉協議会(平成24年度第3回)の開催
平成24年12月17日 ～平成25年1月18日	三師会及び市町からの意見聴取の実施
平成24年12月21日 ～平成25年1月20日	パブリックコメントの実施
平成25年 2月14日	栃木県保健福祉協議会(平成24年度第4回)の開催
平成25年 2月28日	栃木県医療審議会へ計画案を諮問
平成25年 3月 8日	栃木県医療審議会の開催
平成25年 3月11日	栃木県医療審議会の答申

■ 栃木県保健福祉協議会委員名簿

(敬称略)

氏名	役職等	備考
五味 秀幸	栃木県医師会副会長	会長
田村 一夫	栃木県歯科医師会専務理事	
小野村 昌	栃木県薬剤師会副会長	
河野 順子	栃木県看護協会会長	
久保 泉	栃木県栄養士会会長	
宮原 保之	栃木県病院協会参与	
青木 公平	栃木県精神衛生協会会長	
廣澤 敬行	栃木県社会福祉協議会常務理事	
大山 知子	栃木県老人福祉施設協議会会長	
江連 功	栃木県民生委員児童委員協議会副会長	
浜野 修	栃木県地域包括・在宅介護支援センター協議会会長	
小川 榮一	栃木県身体障害者団体連絡協議会会長	
上杉 純夫	栃木県生活衛生同業組合協議会専務理事	H24.5まで
小野塚 和康	//	H24.6から
横松 薫	栃木県市長会(宇都宮市副市長)	H24.5まで
高井 徹	//	H24.6から
服部 公一	栃木県町村会(茂木町副町長)	
小平 知明	公募委員	
益子 純恵	公募委員	
中村 好一	自治医科大学教授	
武藤 孝司	獨協医科大学教授	副会長
岡本 悦司	国立保健医療科学院上席主任研究官	
若林 和雄	栃木県議会生活保健福祉委員会委員長	H24.3まで
小林 幹夫	//	H24.4からH24.12まで
	栃木県議会副議長	H25.1から
菅谷 富士雄	栃木県国民健康保険団体連合会常務理事	H24.3まで
高津戸 忠一	//	H24.4から
大羽 ノブ子	健康保険組合連合会栃木連合会常務理事	

■ 栃木県医療審議会委員名簿

(敬称略)

氏名	役職等	備考
太田 照男	栃木県医師会会長	会長
前原 操	栃木県医師会副会長	
宮原 保之	栃木県医師会常任理事	
勝又 貴夫	栃木県病院協会常任理事	
奥澤 星二郎	栃木県病院協会理事	
斎藤 鉄男	栃木県病院協会参与	
柴田 勝	栃木県歯科医師会会長	
渡辺 建太郎	栃木県薬剤師会専務理事	
佐藤 信	栃木県市長会(鹿沼市長)	
大金 伊一	栃木県町村会(那珂川町長)	
高橋 克法	栃木県国民健康保険団体連合会副理事長	
関谷 忠泉	健康保険組合連合会栃木連合会会長	会長代理
鈴木 美恵子	栃木県食生活改善推進団体連絡協議会会長	
廣澤 敬行	栃木県社会福祉協議会常務理事	
坪内 智子	栃木県女性団体連絡協議会幹事	
安田 是和	自治医科大学附属病院長	
野原 裕	獨協医科大学病院長	
河野 順子	栃木県看護協会会長	
丸木 一成	国際医療福祉大学常務理事	
石坂 真一	栃木県議会議員	H25.2まで
神谷 幸伸	//	H25.3から

■用語の解説

あ行

○ICT

情報通信技術のこと。

○医療型障害児入所施設

障害児を入所させ、保護、日常生活の指導、独立自活に必要な知識技能の付与及び治療を行うことを目的とする施設。

○インスリン

身体がブドウ糖を利用するために必要なホルモンのこと。

○インフォームド・コンセント

医療行為を行うに当たり、医療従事者が患者に分かりやすく十分な説明をすることにより、患者の自由意志による同意を得ること。

○エイズ治療拠点病院

エイズに関する総合的かつ高度な医療の提供及び一般医療機関への情報提供等を担う病院。

○エイズ治療専門協力病院

HIV感染と結核、悪性腫瘍、精神疾患の合併症に関する診療及び一般医療機関・拠点病院に対し、専門的な分野についての技術支援、情報提供を担う病院。

○エイズ治療中核拠点病院

エイズ治療拠点病院の中で、特に高度なHIV診療を行うとともに、拠点病院の医療従事者に対する研修等を担う病院。

○HTLV-1

ヒトTリンパ球向性ウイルス1型といい、成人T細胞白血病/リンパ腫やHTLV-1関連脊髄症などの原因ウイルス。現在では母子感染によるものが多く、妊婦健康診査で抗体価検査が行われている。

○HbA1c

過去1～2か月間の平均的な血糖状態を反映する物質。血液検査で測定でき、糖尿病の診断や血糖コントロール状態の評価などに用いる。

○AED

生命の危険がある不整脈(心室細動)が起きた際に、自動的に必要性を判断し、電気ショックを与えることにより、心臓の働きを正常に戻すための医療機器。

Automated External Defibrillator の略。

○ADL

一人の人間が独立して生活をするために基本的な、しかも各人ともに共通に毎日繰り返される一連の身体動作群のこと。通常は、食事、歩行、入浴、更衣などの動作が含まれる。

○NICU

新生児集中治療管理室。低出生体重児や呼吸障害や奇形などの高度な治療が必要である新生児に対応するための設備を備えている。

○MFICU

母体・胎児集中治療管理室。妊娠高血圧症候群、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体と胎児に対応するための設備を備えている。

か行

○がん医療の均てん化

県内どこでもがんの標準的な医療を受けられるよう、医療技術等の地域格差の是正を図ること。

○肝疾患診療連携拠点病院

肝疾患診療体制の確保と診療の質の向上を図るため、肝炎治療の中心的役割を果たす病院で、肝炎専門医講習会や市民公開講座の開催、肝疾患相談室の設置等を行っている。

○がん診療連携拠点病院

県民がどこでも質の高いがん医療を受けられることを目的として、一定の診療機能や診療体制などを有し、厚生労働大臣が指定した病院。がん診療連携拠点病院は専門的ながん医療の提供やがん診療の連携体制の整備、患者や家族への相談支援及び情報提供などの役割を担っている。

○緩和ケア

がんに伴う体や心の問題を、単に病気に対する医療としてだけではなく、社会生活などまで含めて全人的に患者を支える医療のあり方。

○器質性精神障害

アルツハイマー型認知症や血管性認知症等を含む精神障害をいう。

○気分障害

気分が正常の範囲を超えて高揚したり、落ち込んだりすることが、一定の期間継続するもの。気分障害にはうつ病性障害(うつ病)と双極性障害(躁うつ病)が含まれる。

○QOL

Quality of life(クオリティオブライフ)の略。「生活の質」「生命の質」などと訳される。人の生きがいや価値観、主観的な満足度からその人の人生の中身や質を捉えようとする立場、見方。

○クリプトスポリジウム

腸管寄生性虫のひとつであり、人間が感染した場合、下痢や腹痛を呈することがある。「五類感染症」に指定されている。

○経皮的冠動脈インターベンション

手足などの動脈から細い管(カテーテル)を心臓の冠動脈まで通し、血栓を取り除いたり、狭い部分を風船で広げたり、広げた血管が潰れないように金属で支えたりするなどして、血液の流れを回復させる治療法の総称。

○結核患者収容モデル事業

高度な合併症を有する結核患者又は入院を要する精神病患者である結核患者に対して、一般病床又は精神病床において収容治療するためのモデル事業

○結核罹患率

新登録患者数を人口10万人対率で表したものの。

○健康危機管理

医薬品、食中毒、感染症、飲料水その他何らかの原因により生じる国民の生命、健康の安全を脅かす事態に対して行われる健康被害の発生予防、拡大防止、治療等に関する業務のことをいう。(厚生労働省健康危機管理基本指針)

○合計特殊出生率

15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。(母の年齢別出生数/年齢別女子人口)

○高次脳機能障害

外傷性の脳損傷や脳血管疾患の後遺症として、記憶障害、注意障害、遂行機能障害及び社会的行動障害(依存や退行、欲求や感情のコントロール、固執性、意欲・発動性、抑うつ)などの認知障害を呈する障害。身体障害等を伴わない場合も多く、外見上はその障害が分かりにくいことから、周囲の理解が得られにくく、日常生活や社会生活上の困難を有する。

さ行

○産業保健推進センター

事業主、産業医、地域産業保健センターをはじめとする産業保健関係者・関係機関を支援し、産業保健活動に係る窓口相談・実地相談、情報の提供、研修などを行っている。

○JMAT

日本医師会により組織される日本医師会災害医療チーム(Japan Medical Association Team)の略。

○死産率

出産千に対する妊娠12週以後の死産の出産数の比率。

○シックデイ

治療中に発熱、下痢、嘔吐をきたし、または、食欲不振のために食事ができないときをいう。

○集学的治療

がんなどの困難な病気を治療する際に、手術などを単独で行うのではなく、化学療法や放射線療法など治療効果があると考えられる治療を集学的に行うこと。

○周産期死亡率

出産数(出生数+妊娠満22週以降の死産数)千に対する妊娠満22週以降の死産に生後7日未満の早期新生児死亡を加えた数の比率。

○従属人口指数

$((\text{年少人口} + \text{老年人口}) / \text{生産年齢人口}) \times 100$ で算出され、年少人口及び老年人口に対する生産年齢人口の扶養負担度を示す。

○受動喫煙

自らの意思に関わらず他の喫煙者のたばこの煙にさらされ、それを吸入すること。

○障害保健福祉圏域

限られた社会資源を有効に活用し、市町村単位では対応困難なサービス提供体制や相談支援体制の整備、人材育成等を広域的に支援するための区域として県が設定したもの。

○ジョブコーチ

障害者が就労し、安定した職業生活を送ることができるようになるために、職場に出向き、障害者本人、事業主、家族を支援する者。主に各都道府県の障害者職業センターに配置される「配置型」ジョブコーチのほか、社会福祉法人やNPO法人等に配置される「福祉施設型」、企業内で支援を行う「事業所型」の3種類がある。

○自立支援医療費(精神通院)受給者

精神科の病気で一定の症状があるため継続して通院する必要がある場合に、その医療費の自己負担分を公費で負担する制度で、当該医療費の支給を受ける者。

○新生児死亡率

出生千に対する生後28日未満の死亡数の比率。

○新登録患者数

1年間に新たに発病した患者数。

○精神科救急情報センター

精神科救急に関する相談を受け付け、精神科専門職員が適切なアドバイスを提供する電話相談窓口。

○精神科作業療法

精神疾患を有する者の社会生活機能の回復を目的として行うもの。

治療上の必要がある場合には、病棟や屋外など、専用の施設以外において当該療法を実施することも可能。

○精神科リエゾンチーム

精神科医、薬剤師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理技術者等からなるチーム。一般病棟に入院する精神疾患を有する患者等に対して、精神症状の評価を行い、精神療法や薬物治療等の診療計画の作成、退院後の調整等を行う。

○セカンドオピニオン

病気の診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聞くこと。

○セルフメディケーション

WHOでは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義している。

自分で判断できる軽い病気や体調不良時に一般用医薬品を使用して手当することをいう。

○潜在性結核感染症患者

結核の無症状病原体保有者と診断され、かつ結核医療を必要と認められた者。

○双極性障害

気分障害の一つに分類され、うつ状態に加えて、うつ状態とは対極の躁状態も現れ、しばしばこの「躁」と「うつ」の両極の病状を繰り返す精神疾患をいう。

○卒後臨床研修

医師法第16条の2(又は歯科医師法第16条の2)に基づき、診療に従事しようとする医師(又は歯科医師)が、2年(歯科医師の場合は1年)以上、医学(又は歯学)を履修する課程を置く大学に附属する病院又は厚生労働大臣の指定する病院等において、受けなければならないこととされている臨床研修をいう。

た行

○第一種感染症指定医療機関

一類感染症・二類感染症・新型インフルエンザ等感染症の入院治療機関。

○第二種感染症指定医療機関

二類感染症・新型インフルエンザ等感染症の入院治療機関。

○地域がん登録

特定の地域に居住するがん患者の罹患情報を医療機関から収集し、がんにかかる人数や率、生存状況などを把握・分析し、都道府県のがん対策に活用するために実施する事業。本県では、医療機関からの情報などは、栃木県立がんセンター内にある「栃木県地域がん登録室」に集まり、この登録室で本県のがん罹患の状況の分析・解析などを行っている。

○地域産業保健センター

労働者数50人未満の小規模事業場の事業者や小規模事業場で働く方を対象として、労働安全衛生法で定められた保健指導などの産業保健サービスを提供している。

○地域包括支援センター

高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、①総合相談支援、②権利擁護、③包括的・継続的ケアマネジメント支援、④介護予防ケアマネジメントを担い、地域で高齢者に対する総合的な支援を行う中核機関として各市町に設置されている。

○地域連携クリティカルパス

急性期病院から回復期病院を経て自宅に戻るまでの治療計画表のこと。患者や関係する医療機関で共有することにより、効率的で質の高い医療の提供と患者の安心につながるとされている。

○t-PA療法

組織プラスミノゲン・アクティベータ(t-PA)という点滴薬を用いて、脳梗塞の原因である血栓を溶かし、脳への血液の流れを回復させる治療のこと。t-PAは発症から4.5時間を過ぎてしまうと使用できない。

○DMAT

災害急性期(おおむね発災後48時間)に被災地で活動できる機動性と専門的なトレーニングを受けた医療チーム。Disaster Medical Assistance Team の略。

○ドクターカー

患者監視装置等の医療機械を搭載し、医師、看護師等が同乗し、搬送途上へ出動する救急車をいう。

○ドクターヘリ

救急医療に必要な医療機器や医薬品等を装備し、救急医療の専門医及び看護師が搭乗し、救急現場から医療機関に搬送するまでの間に機内において必要な救命処置を行うことのできるヘリコプター。

○特定給食施設

特定かつ多数の者に対して継続的に食事を供給する施設のうち、栄養管理が必要なものとして厚生労働省令で定めるもの。例えば、学校、病院、老人福祉施設などで、継続的に1回100食以上又は1日250食以上の食事を提供する施設。

○特定健康診査・特定保健指導

医療保険者が40～74歳の加入者を対象として実施する、内臓脂肪型肥満(メタボリックシンドローム)に着目した健康診査。この健康診査の結果により、生活習慣の改善が必要とされた対象者に対しては、特定保健指導を行うこととなっている。

○栃木県がん診療連携拠点指定病院

がん診療連携拠点病院と同程度の診療機能や診療体制が整っているとして、栃木県が指定している病院。なお、栃木県では、診療報酬上のがん治療連携計画策定料等が加算できる「がん診療連携拠点病院に準じる病院」に位置づけている。

○栃木県がん治療中核病院

がん診療連携拠点病院や地域の医療機関と連携して、がんの専門診療(化学療法、放射線療法、緩和ケアなど)や相談支援、がん登録などを行う病院で、栃木県が指定している。栃木県では、診療報酬上のがん治療連携計画策定料等が加算できる「がん診療連携拠点病院に準じる病院」に位置づけている。

○DOTS事業

Directory Observed Treatment Short-course(直接服薬確認療法)の略語で、患者の服薬を直接確認するなどの手法で支援する方法。

○トライアル雇用

障害者に関する知識や雇用経験がないことから、障害者雇用をためらっている企業に、障害者を試行雇用(トライアル雇用)の形で受け入れてもらうこと。

な行

○日中活動系サービス

入所施設等で昼間の活動を支援するサービス。サービス内容により、介護給付(生活介護等)と訓練等給付(就労移行支援等)がある。

○乳児死亡率

出生千に対する1歳未満の死亡数の比率。

○認知症サポーター

認知症サポーター養成講座の受講者で、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かい目で見守る応援者。

○認知症サポート医

認知症サポート医養成研修を受講し、地域において医療と介護が一体となった認知症の人への支援体制構築の役割を担う医師。

○認知症疾患医療センター

保健・医療・介護機関等と連携を図りながら、認知症に関する詳細な診断や、認知症の行動・心理症状と身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談等を実施するものとして各都道府県(指定都市)が指定した医療機関。

○認知症の鑑別診断を行える医療機関

認知症疾患医療センターに配置すべき医師と同等の医師及び臨床心理技術者(兼務可)が配置されている医療機関。

は行

○8020・6024

「8020」は80歳で健康な自分の歯を20本以上残そうというキャッチフレーズ。「6024」は60歳で健康な自分の歯を24本以上残そうというキャッチフレーズ。

○発達障害

中枢神経系の異常によって高次の精神機能に生じる障害。発達障害者支援法では、脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものと規定されており、心理的発達障害並びに行動情緒の障害が対象とされている。自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害などが含まれる。

○ピアカウンセリング

思春期の仲間と心を開いて不安や悩みを分かち合い、解決策を一緒に考えていく活動をピアカウンセリング「仲間相談活動」といい、寄り添ってくれる仲間のことを「ピアカウンセラー」という。

○PICU

小児集中治療室。心臓病をはじめとする難病疾患をもつ小児患者や、救急搬送された重篤な小児患者を収容する。

○BSE

B S E (Bovine Spongiform Encephalopathy: 牛海綿状脳症)

牛の病気で、感染した牛の脳組織に空胞ができて海綿状になり、中枢神経に障害を受けするため行動や運動に異常を示す。原因は、十分に解明されていないが、プリオンというタンパク質が異常化したために発生すると考えられている。

○ヒトパピローマウイルス

子宮頸がんの原因ウイルスで、一般に性交渉によって感染する。予防接種がある。

○不安障害

精神疾患の中で、不安を主症状とする疾患群をまとめた名称。パニック障害は、不安が典型的な形をとって現れている点で、不安障害を代表する疾患。

○物質関連障害

本来は生体内には存在しない物質(アルコール・大麻・覚醒剤など)が体内に入り、脳に影響を及ぼすことによって生じる精神障害。

○プロトコール

複数の者が対象となる事項を確実に実行するための手順等について定めたもの。ここでは病院前救護活動を行う上での処置等の手順をいう。

○訪問系サービス

居宅介護、行動援護、短期入所等在宅で利用する訪問や通所のサービス。

ま行

○メディカルコントロール

救急救命士が医療機関までの搬送途上において実施する救命措置等について、医師が医学的見地から指示・助言、事後の評価・検証等を行うことにより、その質を保障するもの。

○メンタルヘルス対策支援センター

地域における職場のメンタルヘルス対策の中核的機関として、電話相談、訪問支援等、メンタルヘルス不調の予防から復職支援まで、事業者の取り組む職場のメンタルヘルス対策を総合的に支援している。

や行

○要支援・要介護認定

市町村が、高齢者等からの申請に基づき、その心身の状況を訪問調査するとともに、主治医の意見を聴き、介護の必要性の程度を要支援1～2及び要介護1～5の7段階の区分で認定する。介護保険の給付を受けるためには、この要介護(要支援)認定を受けることが必要。

ら行

○リスクコミュニケーション

第6章第3節(食品の安全と生活衛生の確保)では、リスク評価機関(科学者、専門家)、リスク管理機関(行政)、消費者、生産者、事業者、流通、小売などの関係者がそれぞれの立場から、相互に食品のリスク※について情報や意見を交換し、皆が理解し、納得できるように話し合うことをいう。

※食品のリスクとは

食品中に有害微生物などの危害要因が存在する結果として生じる、人の健康に悪影響が起きる可能性とその程度(健康への悪影響が発生する確率と影響の程度)をいう。

○流出割合

(当圏域外の医療施設で受療した当圏域内に居住する患者数/当圏域内に居住する患者数)×100

○流入割合

(当圏域内の医療施設で受療した当圏域外に居住する患者数/当圏域内の医療施設で受療した患者数)×100

○レジオネラ症

環境細菌であるレジオネラ属菌の感染によって起こる感染症のこと。肺炎を中心とするレジオネラ肺炎と、肺炎にならない自然治癒型のポンティアック熱の2つの病型がある。

○レスパイト

介護を要する者を、一時的に預かって家族の負担を軽くする援助サービスのこと。



Dr.とちまるくん

栃木県保健医療計画 (6期計画)

平成25年3月発行
編集・発行 栃木県
〒320-8501
栃木県宇都宮市塙田1-1-20
保健福祉部保健福祉課
TEL 028-623-3103
FAX 028-623-3131